

学習指導に関する調査・研究委員会

第1章

研究の概要

〈第 1 章〉 研究概要

1 研究主題

(1) 研究主題

自ら考え、伝え合う力を育む学習指導の工夫 ～ 言語活動の充実を目指して ～

(2) 主題設定の理由

学校教育における

今日的課題

新学習指導要領実施に当たり、現行学習指導要領の理念でもある確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」が引き続き大切にされた。それは、各種調査結果からは、子どもたちの知識・技能を活用する力や学習意欲、学習習慣・生活習慣に課題があることが明らかになってきたからである。

こうした状況にあって、学校教育の果たす役割を考えたとき、基礎・基本を徹底し、自ら学び自ら考える力を育成することにより、「確かな学力」を育み、「豊かな人間性」やたくましく生きるための健康や体力なども含め、どのように社会が変化しても必要なものとなる「生きる力」の育成を進めることがますます重要となってきている。

本研究の経過と方向性

本研究では、問題解決的な学習を基盤としながら、学習指導の在り方を探っている。これまでの研究の積み重ねによって、単元構成や学習過程を工夫することや子どもたちが主体的に学習に取り組めるような手立てや支援をすることで、意欲的に学習に取り組んだり、見通しを持って課題に取り組んだりする姿が見られるようになった。検証授業を通して、問題解決的な学習の効果が明らかになっていることは確かなことである。

しかしながら、日常の実践の中で問題解決的な学習を進めていく際に、共通する悩みや課題があることも多く指摘されている。

たとえば

◆子どもが問題意識を持って解決していく際、何をどうやって自分の考えを表したらよいか悩んでいることがある。

◆自力解決で自分なりの考えを持ってそれを生かすことをせず、全体で練り合うことをしないまま、子ども不在でまとめがされている。

◆身についた知識や技能、考え方を活用し、新たな課題を解決したり、日常の生活に生かしたりしていく工夫が乏しい。

などのことを指摘されるような学習である。

これらの管内教育における課題を踏まえるとともに、各教科の特性を生かしながら、単元構成の在り方を見直し、構築していくこと

が大切であると考える。

「確かな学力」を育成
するための課題

とりわけ、確かな学力を育成するためには、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむことの双方が重要であり、これらのバランスを重視する必要がある。

このため、

○各教科において基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視する。
○観察・実験やレポートの作成、論述などの知識・技能の活用を図る学習を重視する。

○総合的な学習の時間を中心として行われる教科等の枠を越えた横断的・総合的な課題について各教科等で習得した知識・技能を相互に関連付けながら解決するといった探究活動の質的な充実を図る。

ことが大切である。

また、これらの学習を通じて、その基盤となる言語に関する能力であり、国語科のみならず、各教科等においてその育成を目指している。

さらに、学んだことを実生活で活用する力を育むことが、我が国だけでなく、国際社会においても求められている。

そのために、

○体験から感じ取ったこと表現する力
○情報を獲得し、思考し、表現する力
○知識・技能を実生活で活用する力
○構想を立て、実践し、評価・改善する力

などに目を向け、指導内容との結び付きなどを明確にしなが、各教科等を横断した実践を積み上げていき、育んでいくことが必要である。

新たに3カ年をむかえる
にあたって

当研修センターでは、平成19年度より3年次計画で、「自ら考える力を育む学習指導の工夫」と研究主題を設定し、研究を進めてきた。

「基礎的・基本的な知識や技能を習得及び活用する学習活動」を効果的に盛り込んだ単元構成・「自分なりの考え」をもとに「仲間と学び合う場」を意図的に設定した学習過程・単元を通じた意図的・計画的な評価など検証授業を通し、具現化できたことが大きな成果である。

しかしながら、より意欲的な学びへとつなげていくための指導計画工夫や個に応じた指導の在り方、また多面的に子どもたちを見取るための評価、子どもの声を生かす評価の在り方等、より研究を深める必要性があげられた。

本研究の目的

このようなことから、「確かな学力」を育成するためには、学ぶ意欲を高めると共に、自ら考え、伝える力を育むことが重要であると考え、「言語活動の充実」をキーワードに、「単元構成」や「学習過程」、また「より効果的な指導につながる評価」に焦点を当て、研究を推進することを目的とし、本研究主題を設定した。

2 目指す子どもの姿

〈目指す子どもの姿〉

○課題や問題に向かって、積極的に考える子ども

○確かな言語の力を身につけ、豊かに表現する子ども

○互いの考えを伝え合い、発展させ、学びを深め合う子ども

※実際の授業場面では

- 課題（問題）を見付けることができる、把握することができる。
 - 解決の見通し（「こうしたらよい」「こうなるはず」など）をもつことができる。
 - 既習を生かし、よりよい解決方法を選択したり、判断したり、考えたり、発見することができる。
 - 自分の考えを分かりやすく表し、的確に伝えることができる。
 - 解決したことから新たなことに気づくことができる。
 - 友だちの考えのよさに気付くことができる。
 - さまざまな意見の共通点や相違点を見付けることができる。
 - 自分の学びを振り返ることができる。
 - 学んだこと（知識・理解、方法、考え方等）を次の学びに生かすことができる。 など
- いわゆる、問題解決的な学習を基盤に見られる子どもの姿。

3 研究仮説

【仮説1】「なぜだろう」「解決したい」との思いを大切に、問題解決的な学習を効果的に取り入れた単元構成の工夫と単元の評価を図ることにより、「学ぶ楽しさ」を味わうとともに、自ら考える力を育むことができる。

【仮説2】自ら考えたことを「表し、伝え、高める」活動を意図的に設定した学習過程やその指導のあり方の工夫と1単位時間の評価を図ることにより、「自己解決力」を高めるとともに思考力・判断力・表現力を育むことができる。

4. 研究の視点

視点1

「基礎的・基本的な知識および技能を明確にし、確かな習得を図る」とともに、「思考力・判断力・表現力の育成を図る」 具体的・効果的な言語活動を位置づけた単元構成と単元の評価の在り方

視点2

問題解決学習を基盤とし、「課題意識（問題意識）」や「解決への見通し」を持ち、「自ら考え、伝え合う場」を意図的・計画的に設定した学習過程の工夫と1単位時間の評価の在り方

5. 研究計画

(1) 年次計画

第1年次 研究計画

【第1年次】平成22年度（2010年度）「理論研修と実践」

- 前年次の振り返り
- 「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の決定
- 理論研修と資料収集
- 所員の検証授業
- 研修講座「学習指導」の開催、運営
- 中間報告書の作成、中間発表に向けた準備、発表 研究紀要N o 8 5 作成

第2年次 研究計画

【第2年次】平成23年度（2011年度）「理論研修と実践」

- 第1年次の振り返り
- 「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の見直し、修正
- 理論研修と資料収集により、具現化した授業構築
- 所員の検証授業
- 研修講座「学習指導」の開催、運営
- 中間報告書の作成、中間発表に向けた準備、発表 研究紀要N o 8 6 作成

第3年次 研究計画

【第3年次】平成24年度（2012年度）「理論研修と実践」

- 第1年次の振り返り
- 「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の確立
- 所員の検証授業
- 研修講座「学習指導」の開催、運営
- 中間報告書の作成、中間発表に向けた準備、発表 研究紀要N o 8 7 作成

(2) 今年度の年間計画スケジュール

月（委員会）	研究推進スケジュール	備考・その他
5月第1回	○理論研修、情報交換・収集 ・「今求められている学習指導とは」 ・「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の検討	
6月第2回	○理論研修、授業の姿の具体化、検証授業について ・「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の検討 ・目指す授業の姿の具体化 ・研究体制の検討、確立 ・検証授業の予定	※「研究体制の検討」とは、仮説や視点で重点化をはかった部会を構成するなど、5名の体制で、機能的・効果的に研究を進められるように体制作りをすることである。
7月第3回	○理論研修、検証授業計画 ・「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の検討 ・「研究の視点」具体化 ・検証授業案検討	※これまでの研究内容に関わる討議結果をふまえ、授業（実践）をもとに、目指すべき姿を討議。
8月第4回	○理論研修、検証授業案検討 ・「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の検討、仮決定 ・「研究の視点」具体化 ・検証授業案検討	◆8/5後志教職員夏季研
9月第5回	○理論研修、検証授業反省 ・「研究の視点」と「検証授業」の検討、反省 ・検証授業案検討 ・研修講座「学習指導」の開催、運営	◆道研連十勝大会参加 ◇検証授業実施
10月第6回	○理論研修、検証授業反省 ・「研究の視点」見直しと具体化 ・「検証授業」反省 ・検証授業案検討	◇検証授業実施
11月第7回	○理論研修、検証授業反省 ・「研究の視点」見直しと具体化 ・「検証授業」反省 ・中間報告書・中間発表会原稿検討	◇検証授業実施
12月第8回	○理論研修 ・中間報告書・中間発表会原稿検討 （「主題」から「実践」まで含んで）	
1月第9回	○理論研修 ・中間報告書・中間発表会原稿検討 （「主題」から「実践」まで含んで）	

6. 研究構造図

